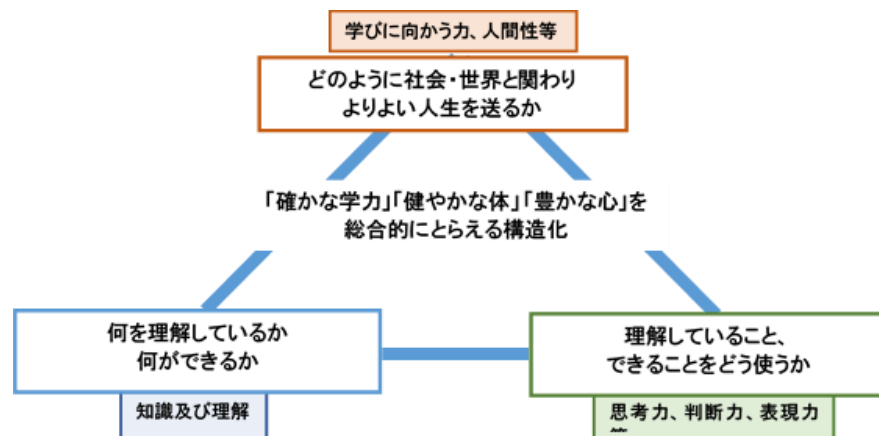


美術 I 観点別評価規準例 資料

三つの柱

学習指導要領の改訂では、学習したことで「何ができるようになったのか」という視点から、全教科等の目標や内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理された。教育課程で育む資質・能力を三つの要素に整理したもので、三つの柱に基づいて科目の目標が示されている。



知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等が、「①知識及び技能」、「②思考力、判断力、表現力等」、「③学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理された。3つの柱は、以下のように言い換えることができる。

- ①知識及び技能……何を理解しているか、何ができるか
- ②思考力、判断力、表現力等……理解していること、できることをどう使うか
- ③学びに向かう力、人間性等……どのように社会や世界と関わり、よりよ

い人生を送るか

科目ごとに習得した「知識及び技能」を「思考力、判断力、表現力等」で使いこなして、学んだことを社会や生活に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」を育むというサイクルになっている。

芸術科「美術」が目指す資質・能力

美術で育む資質・能力を捉える上で、キーワードとなるのが「造形的な見方・考え方」である。「造形的な見方・考え方」は、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や活をつくり出すこととされている。造形的な視点とは、形や色、材料や光などといった造形の要素に着目し、それらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点を指す。つまり、造形的な視点を基に施行することが「造形的な見方・考え方」と言える。

三つの柱で示す「美術」の目標

「(1) 知識及び技能」において、知識は造形的な視点を豊かにするための知識であり、技能は表現における創造的な技能に結びついている。

「(2) 思考力、判断力、表現力等」が指し示すものは、表現における発想や構想の能力、鑑賞における価値意識を伴った見方や感じ方となっている。「(3) 学びに向かう力、人間性等」はいわゆる関心、意欲、態度のことで、学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関するものを示している。

「美術」の目標と内容構成

<美術 I の目標>

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意

図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

目標は内容の各項目と個別に関連している。「(1) 知識及び技能」の知識は新設の〔共通事項〕に関連し、技能はA表現の各分野の括弧無しのアに関連している。「(2) 思考力、判断力、表現力等」はA表現とB鑑賞の双方に関連付けがあり、A表現では各分野の括弧無しのア、B鑑賞では項目全体に関連付いている。これは、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を豊かに育むためには、表現の発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を相互に関連して働かせて学習を進めることが大切だからである。「(3) 学びに向かう力、人間性等」は授業全体に関連付けて育成するように位置付けられており、A表現、B鑑賞及び〔共通事項〕を指導する中で、一体的、総合的に育てていくものとなっている。

○「美術Ⅰ」の目標と指導内容の関連

領域等	項目	指導内容	目標との関連
A 表現	(1) 絵画・彫刻	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想	「思考力、判断力、表現力等」
		イ 発想や構想をしたことを基に創造的に表す技能	「技能」
	(2) デザイン	ア 目的や機能などを考えた発想や構想	「思考力、判断力、表現力等」
		イ 発想や構想をしたことを基に創造	「技能」

	(3) 映像メディア表現	的に表す技能	
		ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想	「思考力、判断力、表現力等」
B 鑑賞	(1) 鑑賞	イ 発想や構想をしたことを基に創造的に表す技能	「技能」
		ア 美術作品などに関する鑑賞	「思考力、判断力、表現力等」
〔共通事項〕		イ 美術の働きや美術文化に関する鑑賞	
		ア 造形の要素の働きの理解	「知識」
		イ 全体のイメージや作風、様式などで捉えることへの理解	

〔共通事項〕について

新たに設定された〔共通事項〕は、表現と鑑賞のどちらの学習にも必要となる造形的な視点に関する指導事項を示したものである。

造形的な視点について理解を深めることが、美術における知識の習得に繋がる。〔共通事項〕は、その造形的な視点を豊かにするために必要な知識として位置付けられている。ここでの知識とは、単に美術史の流れで登場する人物名や作品名を覚えたり、色相環の並びを暗記したりするというのではなく、あくまでも形や色などといった造形の要素が何らかの効果を持って働くことを理解し、それを創造的に活用したり、鑑賞の切り口として捉えたりすることで発揮されるものである。

〔共通事項〕の「共通」とは、発想や構想、技能、鑑賞に関する資質・能力に共通して働くという意味で、A表現とB鑑賞の学習、それぞれに必要な資質・能力を育成することを示したものである。そのため、〔共通事項〕はそれのみで取り上げて題材にするものではなく、A表現とB鑑賞の双方の学習を通して指導すること、と記されている。今後は、〔共通事項〕に示される資質・能力を理解し、表現と鑑賞の学習の相互の関連をより強く意識した指導が求められる。

学習評価について

学習評価については、指導したことを評価し、評価したことを指導に生かしていく「指導と評価の一体化」が強調されている。このことから、目標の三つの柱と対応して学習評価の観点も3観点で整理された。

<美術 I の評価の観点の趣旨 >

美術の特性に応じた評価の観点及びその趣旨を、以下の表に示す。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ○創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

(参考) 各科目の特性に応じた評価の観点の趣旨。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
美術 I	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ○意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

美術 II	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ○表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。
美術 III	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ○意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表わしている。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。

<4観点から3観点に>

観点別学習状況の評価の観点もこれまでの4観点から、「知識・理解」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。特に留意したいのは、「知識」が今回の改訂で新設された〔共通事項〕と対応していることである。

また、現行の4観点では、「知識・理解」と整理している第4観点を美術科では「鑑賞の能力」と位置付けている。一方、今回の改訂では「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにする事が求められている。

■「知識・技能」の評価

○個別の知識及び技能の習得状況について評価する。

○それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

※美術では：「知識」は〔共通事項〕で示されたことが理解できているか。「技能」はこれまで同様に創造的に表す技能。

■「思考・判断・表現」の評価

○知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

※美術では：「A 表現」の発想や構想を通して育成する力と、「B 鑑賞」の鑑賞

を通して育成する力で構成される。

■「主体的に学習に取り組む態度」の評価

○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

※美術では：美術の創造活動の喜びを味わいながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」を身に付ける学習活動に主体的に取り組もうとする態度を評価する。

4 観点（平成 22 年）の評価の観点の趣旨

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

3 観点（平成 31 年）の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。		

※旧 4 観点と新 3 観点がどのように対応しているのかを矢印で示した。

4 観点の「美術への関心・意欲・態度」は、3 観点の「主体的に学習に取り組む態度」に対応。

4 観点の「発想や構想の能力」は、3 観点の「思考・判断・表現」の前半部分に対応。

4 観点の「創造的な技能」は、3 観点の「知識・技能」の技能に対応。

4 観点の「鑑賞の能力」は、3 観点の「思考・判断・表現」に対応。

3 観点の「知識・技能」の「知識」は、〔共通事項〕に対応。

<学びの目標から評価規準を作成する>

例：課題 自分を見つめて描こう

指導計画を作成するに当たり、まず、目標の設定が必要となる。指導と評価の一体化により目標と評価は表裏一体であり、多くの場合、目標の文末の「～する」を「～している」とすることで評価規準となる。

学びの目標

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「学びに向かう力、人間性等」
構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。	人物の印象などを基に、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。	自己や他者の内面を人物画に表す学習活動に、主体的に取り組む。

知識は〔共通事項〕と題材の内容、技能は私用する材料や用具（この課題では絵の具）などに対応させてより具体的に記述する。

教科書では様々な人物画の指導に対応しているが、この課題（自画像）をとおして学ぶ内容に絞って整理する。

課題で設定した、知識・技能の獲得や思考力・判断力・表現力を身に付けるために、主体的に取り組もうとしているかを評価する。

評価規準例

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「学びに向かう力、人間性等」
「知」 構図や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	「発」 自己を見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	「態表」 自己の内面を探り、感じ取ったことや考えたことなどを基にした人物画を描く表現の創造活動に主体的に取り組もうとしている。
「技」 目的や意図に応じて絵の具などの特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	「鑑」 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	「態鑑」 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい人物の特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。

※表内で用いている略号

「知」 = 「知識・技能」の知識に関する評価規準 「技」 = 「知識・技能」の技能に関する評価規準

「発」 = 「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準 「鑑」 = 「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準

「態表」 = 表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準 「態鑑」 = 鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準

『高校美術』（美 I -703） 題材の目標と評価規準（例）

- ・本資料では 3 観点の評価規準例をすべての内容について示していますが、毎回の授業ですべての観点を評価する必要はなく、授業展開に応じて必要な観点を
 択・アレンジして使用してください。
- ・本資料は制作中のものであり、今後改訂する可能性があります。
- ・表内で用いている略号は以下となります。
 - 「知」＝「知識・技能」の知識に関する評価規準
 - 「技」＝「知識・技能」の技能に関する評価規準
 - 「発」＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準
 - 「鑑」＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準
 - 「態表」＝ 表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準
 - 「態鑑」＝ 鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準
 - 「知・技」＝「知識・技能」に関する評価規準

教科書 p 4~9 オリエンテーション 目に見えないものを表現する。 紙の上で考える。 思考に形を与える。

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 作者の創造性から、概念や思考に形や色を与えたり、既存のモチーフなどからイメージを抽出したりする方法に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 頭の中にあるイメージを具現化する場合に、よさや美しさはどのように表れてくるのか、また使う人の立場や用いる場面を想定し、機器の特性などを生かした、作者の表現の意図や工夫について考える。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 作者の創造性に着目して、表現の意図や工夫を読み取り鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 作者の創造性から、概念や思考に形や色を与えたり、既存のモチーフなどからイメージを抽出したりする方法に着目し、作品の表現の意図や工夫、よさや美しさなどを全体のイメージや作風、様式などを捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 頭の中にあるイメージを具現化する場合に、よさや美しさはどのように表れてくるのか、また使う人の立場や用いる場面を想定し、機器の特性などを生かしたよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わる中で、創造性を駆使して表現された作品の、鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 12～15 鑑賞／絵画 創造の扉 | パプロ・ピカン

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 これまでになかった表現を生み出した、作者の創造性に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 これまでになかった作品を生み出すという場合に、よさや美しさがどのように表れてくるのかを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考える。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 作者の創造性に着目して、表現の意図や工夫を読み取り鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 これまでになかった表現を生み出した、作者の創造性に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 これまでになかった作品を生み出すという場合に、よさや美しさがどのように表れてくるのかを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わる中で、創造性を駆使して表現された作品の、鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 16～17 表現・鑑賞／絵画 内面を見つめて

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 自己を描く活動を通して、形や色、構図や表情などの感情に与える効果を知り、造形的な特徴を基に全体のイメージなどを捉え、意図に応じて絵の具などの材料の特性を生かして創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 自身の内にある本質などに向き合い、見つめ直し、感じ取ったことや考えたことなどを基に、形や色、構図、表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 自己の内面を人物画に表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 多くの自画像から、表情、ポーズ、一緒に描き込むモチーフ、背景などの感情に与える効果や、造形の特徴などを基に、作者の内面や作風、様式などを捉えることを理解している。</p> <p>「技」 意図に応じて絵の具などの特性を生かし、人物画の表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。</p>	<p>「発」 自己を見つめ感じ取ったことや想像したことなどから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、表情やポーズなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わり、自画像による表現と鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 18～19 表現・鑑賞／絵画 身近な風景を描く

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 風景の中の空間を表す活動を通して、形や色、構図などの感情に与える効果、造形的な特徴などを基に全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 木のある土地といった身近な場所の風景などから感じ取ったことや考えたことを基に、形や色、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 風景から感じ取ったよさや美しさなどを捉えて表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 風景の中の空間、形や色彩の効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 意図に応じて絵の具などの特性を生かし、表現方法を工夫し、主題を追求して創造的に表している。</p>	<p>「発」 風景を観察し、五感で感じ取ったことなどから主題を生成し、形や色、構図などの効果を考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 木のある風景を描く表現の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、風景画の見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わり、木のある風景描写による表現と鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 20～21 表現・鑑賞／絵画 配置と構図で語る

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 形や色、配置や構図の効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などを捉え、意図に応じて絵の具の特性などを生かして表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 身近なものの組み合わせから感じ取ったり考えたりしたことを基に、パースや視点の位置、並びや組み合わせを考え、構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 作者の視点に着目して、配置や構図による表現の特性を生かして絵画に表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 身の回りのものを描く際の配置や構図、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 意図に応じて画面の比率、形や色、配置や構図などの特性を生かし、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。</p>	<p>「発」 身近なものの特徴を観察し、感じ取ったことなどから主題を生成し、静物画の表現の特性を生かし、形や色、配置、構図などを考え、創造的な構想を練っている。</p> <p>「鑑」 静物画の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わり、配置や構図による表現と鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 言葉で説明できない概念、感覚、音などに着目し、形や色、構図などの感情に与える効果や、造形的な特徴を基に全体のイメージや作風、様式などを捉えることを理解し、意図に応じて絵の具などの特性を生かして表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 物質的な形をもたないものを感覚的に捉え、感じ取ったり考えたりしたことを基に、混色を意識した具象に頼らない形や色などによる表現の効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 感情やイメージなどを象徴する形や色を考え、抽象絵画に表す創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 言葉で明確に伝えることが難しい概念、感覚、音などを、形や色、構図などの効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 意図に応じて混色といった絵の具の特性などを生かし、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。</p>	<p>「発」 言葉にできない物事の形をイメージして、想像したことなどから主題を生成し、表現形式の特性を生かし形や色などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 抽象絵画のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、抽象絵画の歴史や表現の特質などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わり、抽象画による表現と鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 これまでになかった表現を生み出した、作者の創造性に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 これまでになかった作品を生み出すという場合に、よさや美しさがどのように表れてくるのかを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考える。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 作者の創造性に着目して、表現の意図や工夫を読み取り鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 これまでになかった表現を生み出した、作者の創造性に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 これまでになかった作品を生み出すという場合に、よさや美しさがどのように表れてくるのかを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わる中で、創造性を駆使して表現された作品の、鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 26～27 鑑賞／絵画 継承と創造

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 後世の作家たちに多大な影響を与えた優れた作品と、それを模倣し再構成した作品群を比較・鑑賞して造形的な特徴などを捉え、どのように新たな創作へと結び付いていったのか、創造の連鎖に気づき理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 優れた作品を模倣する中で作家はどのような気づきを得て構想を練っていったのか、新たに生み出された作品の魅力や価値を感じ取り、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 自分ならどのように模倣し、また再構成して新たな作品としていくかを考え、発想の種を探しながら、作品の見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 様々な模倣を生み出すきっかけとなった作品の造形的な特徴などを基に、どのようなポイントが後世の作家たちの創作欲を刺激したのか理解している。</p>	<p>「鑑」 模倣から生み出されていった作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 多様な発想の礎となった作品をあらためて見つめ直し、自分ならではの発想の種を探しながら、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 28～29 鑑賞／絵画 江戸の日常

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 「江戸名所図屏風」の鑑賞を通して、江戸の風情を視覚のみならず、音や匂いなどからも想像し、屏風に特有な金雲などの効果を捉えて、形や色、構図、人物の描き分けなどを基に、全体のイメージや作風、様式などを理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 日本の屏風のよさや美しさ、日本美術の表現の特質、美術文化の継承と創造、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫について五感を駆使して想像し、考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 江戸時代の屏風を鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 日本の屏風における金雲や空間の効果、形や色、構図、人物の描き分けなどを基に、作品全体のイメージや作風、日本美術の屏風における様式などを捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 屏風のよさや美しさを感じ取り、日本美術の表現の特質、美術文化の継承と創造、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫について五感を駆使して想像し、考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 江戸時代の屏風を鑑賞する創造活動に、主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 30～31 表現・鑑賞／絵画 怪異の生き物たち

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 見えない事象に注目し、擬人化や事物の組み合わせなどによる怪異な生き物の制作を通して形や色の感情に与える効果を理解し、全体のイメージなどで捉え、絵の具など描画材の特性を生かして表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 見えない事象に注目し、過去の妖怪のイメージや自分が想像したり空想したりしたことなどを基に、形や色、組み合わせなどの効果を考え、妖怪やキャラクターの構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 空想などから、怪異の生き物たちを表す表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 怪異な生き物の制作を通して形や色の感情に与える効果を理解し、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 見えないものを怪異の生き物として視覚化するという活動において、意図に応じて絵の具などの特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して創造的に表している。</p>	<p>「発」 見えない事象に注目し、感じ取ったことなどから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形や色、擬人化などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 妖怪を描くことよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、擬人化の歴史や表現の特質などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」 見えない事象を怪異の生き物として表す表現の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わり、見えない事象を怪異の生き物として表した作品を鑑賞する創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 32～35 鑑賞／絵画 過去、現在、未来を見通すアート

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 一人では成し得ぬ壮大な作品の制作プロセスを理解し、統一感がありながらも変化に富む羅漢図が生まれた背景を感じ取り、その造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 500体の羅漢像一体一体の造形的な面白さを感じ取り、それぞれに込められた作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、さらに全体を俯瞰して鑑賞することで見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 日本の伝統的な意匠だけでなく、漫画やアニメーションなどから引用した表現方法にも着目し、作品の見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 壮大な作品を生み出すに至った背景を感じ取り、チームで制作する意図と制作プロセスを理解し、多様なデザインが織り込まれた造形の様々な要素の働きを捉えている。</p>	<p>「鑑」 羅漢像の造形的なよさや面白さを感じ取り、それぞれに込められた作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 日本の伝統的な意匠だけでなく、漫画やアニメーションなどから引用した表現方法にも着目し、作品の見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 これまでになかった表現を生み出した、作者の創造性に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 これまでになかった作品を生み出すという場合に、よさや美しさがどのように表れてくるのかを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考える。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 作者の創造性に着目して、表現の意図や工夫を読み取り鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 これまでになかった表現を生み出した、作者の創造性に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 これまでになかった作品を生み出すという場合に、よさや美しさがどのように表れてくるのかを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わる中で、創造性を駆使して表現された作品の、鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 複数の身近な素材の形、色彩、材質等から伝わる特性を理解した上で、構成したり、接着したりする方法や材料を試しながら自己決定し、新たな世界感を創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 組み合わせる素材の個々の魅力を感じ取り、組み合わせたり、調整したりすることで主体的に主題を生成し、さらに新しい魅力や価値が生まれることを創造のプロセスとして楽しみながら構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 身の回りにある、美しい、面白い、気になるものを組み合わせようとする行為で、社会にあるものを新しい視点で主体的に見つめる姿勢を醸成し、作品の見方や感じ方を深める創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 身近な素材を形、色彩、材質等から伝わる特性を基に自分なりに分類でき、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 自分のテーマに沿って、構成したり接着したりする方法や材料を選んで、用具、道具を適切に使用し、主題を追求して表現方法を創意工夫している。</p>	<p>「発」 素材の魅力を生かして、組み合わせたり、調整したりすることで主体的に主題を生成し、さらに新しい魅力や価値を生み出すため表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 素材それぞれの魅力を五感を通して感じ取り、創造する過程で活用しながら見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」 身の回りにあるものを組み合わせる中で、現在の社会にあるものや自然環境を主体的に新しい視点で見つめようとしている。</p> <p>「態鑑」 身近なところや生活の中でよさや美しさを感じ取り、様々な価値づけて見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 目で見ただけではなく、感じたことを、画材の特性に合わせて描きとめることの意味を捉え、その面白さを実感し、旅先や日常の風景を短時間で描くために、技巧ではなく、形や色、筆致を吟味して創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 日常の風景や旅先で、自分の心が動いた場面を文章や絵でかきとめることで、自身の内面を知ったり、自分のすべきことをまとめたりするなど、自身の主体の理解を深めながら構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 新しく出会った風景の中に存在する見なれた道具や情景、色彩などを新鮮に受け止め、スケッチの特性を生かした制作や、普段見つめている形や色彩に対する見方や感じ方を深める創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 描く対象をよく理解して全体のイメージで捉え、目で見ただけではなく感じたことを、画材の特性に合わせて描きとめている。</p> <p>「技」 旅先や日常の風景を短時間で描くために表現方法を創意工夫し、技巧ではなく、形や色、筆致で感じたことを伝えることができるよう、主題を追求して創造的に表している。</p>	<p>「発」 普段の生活でいつも気になることなどを挙げ、無意識に感じ取っていることなどから主体的に主題を生成し、表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 日常の風景や旅先で、自分の心が動いた場面を文章や絵でかきとめておくことで、スケッチの表現のよさや美しさを感じ取るとともに自己理解を掘り下げ、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」 主体的に描いて表現することで、日常生活の中で非日常や新鮮な思いを感じ取る創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」 新しく出会った風景の中に、見なれた道具や情景、色彩を見つけることでよさや美しさに気づき、特別な意味や価値を感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 42～43 表現・鑑賞／絵画 版を用いて表現を深める

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 生徒自身の活動した痕跡を残すという視点から、凸版、凹版、平版、孔版等の方法、技法について様々に試して理解し、自分の主題から表現方法を導く姿勢を培って、版画の特性を生かして創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 凸版、凹版、平版、孔版等の特徴からどのような表現が可能か、心豊かにイメージを膨らませて主体的に主題を生成し、自身の「美の在り方」の理想を追求するために構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 現在、あるいは未来において、自分の「何を」「どのように」痕跡を残すことができるのかを思考し、主体的に計画を立てることで、学ぶことの意味、生きることの意味を考え、見方や感じ方を深める創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 凸版、凹版、平版、孔版等の方法、技法について自ら様々に試し、それぞれの造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 自分の意図や表現対象に応じて技法を自在に選択でき、表現方法を創意工夫して主題を追求し、創造的に表している。</p>	<p>「発」 凸版、凹版、平版、孔版等の特徴から、どのような表現が可能かのイメージを膨らませて主体的に主題を生成し、表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 版画による表現のよさや美しさを感じ取り、表現者が何を表そうとしたのか、また何を痕跡として残そうとしたのかを考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」 現在、あるいは未来において、自分の「何を」「どのように」痕跡を残すことができるのかを思考し、それに合わせて主体的に表現する創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」 作品の鑑賞を通してよさや美しさを感じ取り、自己の未来を考えることで、学ぶことの意味、生きることの意味を考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 46～47 鑑賞／彫刻 運慶とミケランジェロ

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 「ダヴィデ」と「金剛力士立像」の比較鑑賞から、素材、作者、時代背景、宗教・文化の流れ、制作された場所等の意味を捉え、それらの特徴を基に、一般化された科学的な美の表現と、個人の内面の表現について理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 地球の重力下で「立つ」という課題に対し、様々な文化、文明における立体造形や彫刻の表現者がどのように乗り越えようとしたのか、その心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 鑑賞活動を通して、土地や気候の違いから生まれる文化の違いや価値の違い等を感じ、自分が育った風土のよさを生かした表現や、異なる文化の受容を楽しめる創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 一般化された科学的な美の表現と、個人の内面にある思いの表現について、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 どのような文化、文明においても、立体造形や彫刻では共通している、「立つ」という課題を、表現者がどのように乗り越えようとしたかを思考し、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 鑑賞活動を通して、土地や気候の違いから生まれる文化の違いや価値の違い等を感じ、自分が育った風土のよさを生かした表現や、異なる文化の受容を楽しむ創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 50～53 鑑賞／絵画 創造の扉 | アンディ・ウォーホル

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 これまでになかった表現を生み出した、作者の創造性に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 これまでになかった作品を生み出すという場合に、よさや美しさがどのように表れてくるのかを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考える。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 作者の創造性に着目して、表現の意図や工夫を読み取り鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 これまでになかった表現を生み出した、作者の創造性に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 これまでになかった作品を生み出すという場合に、よさや美しさがどのように表れてくるのかを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 美術や美術文化と豊かに関わる中で、創造性を駆使して表現された作品の、鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 54～55 鑑賞／彫刻 立体表現の広がり

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 現代アートの魅力は鑑賞者による思考であり、思考の契機となる作品が鑑賞者にもたらす新たな視点を多様に見いだせることを理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 作品から感じられる「問い」を整理し、他者に伝えることを通して、その「問い」にどのように応えるのか、また、なぜ応えるべきなのかを考えることで見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 鑑賞から得た新たな視点を活用して、生活や学習活動で違和感や視点を多様に作り、主体的に「問いを立てる」ことの意義を模索しながら、見方や感じ方を深める創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 現代アートから多様な思考が導き出される面白さを知り、アートの魅力は、作品が鑑賞者自身の思考のための新たな視点を多様にもたらすものであることを理解している。</p>	<p>「鑑」 作品から感じられる「問い」を整理し、他者に伝えることを通して、その「問い」にどのように応えるのか、また、なぜ応えるべきなのかを考えることで見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 鑑賞から得た新たな視点を活用して、生活や学習活動で違和感や視点を多様につくり、主体的に「問いを立てる」ことの意義を模索し、見方や感じ方を深める創造活動に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 56～57 鑑賞／彫刻 サイエンス×アート

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 既知の科学の知見を自分の生活の中で活用する知識と、美術で学んだ木やプラスチック等の素材の加工、操作する知識・技能とを合わせることで、新しい文化の生成が可能であることを理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 科学の新しい知見を見いだす力は、生活の中で感じた疑問を探究する力であり、空想を含めたイメージする力であることを認識し、生命や物理、科学の世界における創造力の必要性を考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 日常生活の中でも常に疑問や違和感を持ち、その原因を探究し、視覚的、感覚的にイメージしたり、表現したりできる創造的な姿勢を醸成して、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 これまで学習した理科や社会などの多くの知見を自分の生活の中で活用する知識と、美術で学んだ木やプラスチック等の素材の加工、操作する知識・技能とを合わせることで、新しい表現ができることを理解している。</p>	<p>「鑑」 ヤンセンの作品から、生命科学の追究と創造的なイメージの広がりの方を感じ取り、その意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 日常生活での気づきを、視覚的、感覚的にイメージするなど創造的に楽しみながら、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 58～59 鑑賞／デザイン デザイン > コミュニケーション <

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 地理歴史、公民科で学習する文化に関わる内容や美術の文化史と、自分の日常生活の中にある身の回りのデザインとの関係をイメージしてその意図を捉え、目的や機能と造形の要素の働きとの相関を理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 新旧のツールを比較、考察する中で、目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、人類がより豊かで自由な生活をするために何をして、何を伝えてきたのかを思考し、見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 身近な道具はデザインの進化や科学の発展、文化の変遷を経た上に成り立っており、新たな道具を生むことは先人のアイデアを踏まえることにつながると理解し、見方や感じ方を深める創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 地理歴史、公民科で学習する文化に関わる内容や美術の文化史と、自分の日常生活や身の回りのデザインとの関係を、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 スマートフォンと 4000 年前の石盤との関係をイメージする中で、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、人類がより豊かで自由な生活をするために何をし、何を伝えてきたのかを考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 道具やデザインの進化は、科学の発展、文化の変遷の上に成り立っていることを感じ取り、よりよいデザインのアイデアを導くために先人の文化を振り返りながら、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 60～61 鑑賞／気づきに気づく

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 知っているようで知らない『無知の知』を背景として、りんごを題材にデザインとは何かをひもといていく中で、造形や文字、色で表現されるデザインの根幹を捉え、デザインの発想に大切な「気づき」を理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 りんごを深く観察し、実は多様であるりんごの色彩を抽出したり、りんごを言語化したりするメソッドを通じて、デザインのアイデアを広げる思考方法や表現の工夫について理解し、デザインとは何かを深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 デザインの考え方、つくり方、伝え方を知ること、デザインに込められている目的や機能を理解し、作品の見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 りんごを題材とした様々な課題を通して、素材の色や形、食味などを観察・思考する中で、意図に応じて多様な伝え方があることを理解している。</p>	<p>「鑑」 りんごの特徴をあらためて捉え直し、デザインの目的や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 デザインの発想に必要な「気づき」を学ぶ中で、デザインに込められた目的や機能を理解し、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 62～63 表現・鑑賞／デザイン ポスターで考える

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 一瞬で人の注意を引き、振り向かせることができるのはどんなポスターなのか考え、写真やイラスト、色彩、文字、構図などの持つ働きを理解し、伝えたい目的に応じて吟味し創意工夫して創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 様々なポスターから、効果的にメッセージを伝えるための工夫を感じ取り、心豊かな発想をして主体的に主題を生成し、テーマに見合った表現方法を模索しながら構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 ポスターを構成する要素一つ一つを読み解きながら、ポスターというメディアならではの表現の特性を生かした制作や、見方や感じ方を深める創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 ポスターに込められた意図や目的を捉え、その構成要素である写真やイラスト、色彩、文字や構図などの造形的な特徴を基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 一瞬で人の注意を引くという目的に応じて表現方法を工夫し、主題を追求して創造的に表している。</p>	<p>「発」 様々なポスターを鑑賞して感じ取ったことや考えたことから主体的に主題を生成し、要素を吟味して目的に合った表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 ポスターにおける表現のよさや美しさを感じ取り、誰かに伝えるためのメディアに対する見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」 ポスターの役割や効果を読み解きながら、ポスターを制作する活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」 ポスターというメディアのよさや美しさを感じ取り、それぞれの意図や表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 64～65 表現・鑑賞/デザイン タイポグラフィー

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 身の回りのあらゆるメディアに使用されている文字そのものに注目し、色や大きさ、レイアウトなどの表現方法を観察してその意味を捉え、多彩な表情を見せる文字の特性を生かして創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 文字を使用する目的や条件、美しさなどを考えて主体的に主題を生成し、文字そのものが持つ機能や効果、表現形式の特性などを理解して心豊かに発想し、構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 タイポグラフィーによる幅広い表現の面白さを理解し、自分や他者の作品を通じて作者の意図や工夫を知り、主体的にデザインの表現の創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 文字の形や大きさ、色、レイアウトなどの造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>「技」 意図に応じて表現方法を創意工夫し、文字そのもののデザインの特徴を生かして、目的や計画を基に創造的に表している。</p>	<p>「発」 タイポグラフィーの制作を通じ、その目的や美しさなどを考え、主体的に主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 タイポグラフィーの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、その表現のよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」 身の回りのタイポグラフィーから受ける印象やデザインの工夫について考え、主体的に表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」 タイポグラフィーのよさや美しさを感じ取り、そこに込められた意図を汲み取って見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 66～67 鑑賞/デザイン マークのデザイン

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 様々な考え方や理念を、視覚的に、直感的に分かりやすく伝える働きをするマークやアイコンを通して、その造形の要素や働きを捉え、どのような意図や目的、機能が込められているのか理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 マークがつくられた目的や、その機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、心豊かに発想して創造的な表現の工夫を捉え、見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 マークの特性を理解し、どんなことを伝えようとしているのか考えながら作者の意図や工夫を感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 マークに込められたコンセプトや意図、目的を捉え、言葉を越えた分かりやすさや視覚的な面白さを感じ取り、その造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 マークがつくられた目的や、機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 マークやアイコンなど、単純化された造形のよさや美しさについて考えながら、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 72～73 鑑賞/デザイン 優しさのデザイン

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 人の暮らしの中にある様々なもの、場所、場面におけるデザインの工夫を感じ取り、造形的な特徴などを基にデザインに込められた「優しさ」を考えながら、人に寄り添うデザインについて理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 身近なものに施されているデザインの色や形、素材、機能に着目し、造形的なよさや美しさを感じ取りながら、つくり手の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 人の暮らしに寄り添うデザインを見つめ直すことを通じて、身近なものや場所、場面に込められた思いを感じ取り、デザインの見方や感じ方を深める創造活動に主体的に取り組む。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 人の暮らしの中にある様々なものを観察し、使いやすさや心地よさなど、そのデザインの造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p>	<p>「鑑」 快適な暮らしを生むために工夫されたデザインにおける色や形、素材、機能に着目し、造形的なよさや美しさを感じ取りながら、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 人の暮らしに寄り添うデザインのよさや美しさを感じ取り、その意図やデザインの工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 74～75 鑑賞/デザイン 仕組みをデザインする

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 デザインは形や色、言葉などを効果的に組み合わせることで、その意図や目的、情報を的確に伝えることを可能にし、さらに人と人とのコミュニケーションを円滑にする働きがあることを理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 社会が多様化していく中で生じる様々な課題を、デザインで解決している例を参考にしながら、自分の身近にある問題をデザイン的な思考を用いて変えていくために構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 デザイン思考を理解し、問題の本質へとたどり着いて解決へと導くため、作品の見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 身近な困りごとを解決するためにアイデアを広げ、また集約する中で問題の本質を捉え、変化へのアプローチを導き出すデザイン思考について理解している。</p>	<p>「鑑」 社会が多様化していく中で生じる様々な課題を、デザインによって解決していく手だてについて考えながら、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 デザインによる様々な課題解決へのアプローチを理解し、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 76～77 鑑賞／映像メディア表現 テクノロジーで表現をどのように変えるのか？

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 映像の仕組みと特性を知り、映像の歴史や技術の発展と表現について考察してその意味を捉え、映像に関する最新技術の現状と新しい表現の広がりを理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 アナログと最新デジタル技術の相違を比較して、表現のこれからの可能性を理解し、映像の新たな技術の特性と制作者の意図を感じ取り、表現の創意工夫を探りながら見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 映像に関する興味関心を高めて新たな映像メディアリテラシーの理解を深め、多様な映像表現を多視点から考察し、生徒相互に意見交換を行い、主体的に鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知」 映像の仕組みと特性を知り、最新技術の効果と可能性を追究し、映像技術の歴史や技術の発展と表現の関係性を理解している。	「鑑」 様々な技術や表現方法を考察しながら表現のよさや美しさを感じ取り、制作者の意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	「態鑑」 映像についての興味関心を高め、新たな映像メディアリテラシーの理解を深め、多視点から考察して主体的な意見を持ち、鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

教科書 p 78～79 表現・鑑賞／映像メディア表現 写真と時間

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 多様な作品を鑑賞し、作者や制作背景を理解して作品の意味を捉え、機材を適切に設定できるように技術的操作を体得し、カメラの機能や特性を生かして創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 テーマを理解し、被写体を多様な視点から観察・熟慮して主題を生成し、撮影の効果を生かした方法を試行錯誤しながら、写真の視覚的な要素の働きについて考え、主体的に構想を練ったり鑑賞したりする。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 鑑賞した作品から制作者の意図や創意工夫を考察し、写真表現の特性を生かした制作活動を通じて検討を重ね、改善点や課題を主体的に発見し、ブラッシュアップして見方や感じ方を深める創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知」 機材やカメラの特性を基に、適切な設定や撮影方法を追究して、全体のイメージで捉えることを理解している。	「発」 作品のテーマを理解し主体にする被写体を適切に判断し、主体的に主題を生成して表現の構想を練っている。	「態表」 他者からの意見を受け止め、考察し、課題をもって主体的に作品の改善に取り組もうとしている。
「技」 意図に応じてカメラ設定や機材操作など表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	「鑑」 写真表現のよさや視覚的効果の美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めている。	「態鑑」 制作者の意図を感じ取り、撮影方法や効果を考察して、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

教科書 p 80～81 表現・鑑賞／映像メディア表現 アニメーションの仕組み

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 アニメーションの仕組みや多様な技法と効果的な制作工程の意味を捉え、アニメーション撮影するための機材の設定・操作の工夫と編集技術の特性を生かして創造的に表す。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 アニメーションの特性を生かしたストーリーを自由に発想し、創造的な表現を追求して「動き」の特性や視覚効果を生かし、主体的に主題を生成して内容に応じた素材や技法を吟味し、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 目的に合わせて効果的な表現を主体的に追求して完成度を向上させ、日常生活から動きの特徴を考察してリアリティを追求し、創意工夫して制作する中で、見方や感じ方を深める創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 造形的な特徴などを基に、アニメーションの仕組みや多様な技法と効果的な制作工程を理解している。</p> <p>「技」 アニメーション撮影するための機材の設定・操作と編集技術を習得し、意図に応じて表現方法を創意工夫している。</p>	<p>「発」 アニメーションの特性を生かしたストーリーを構想し、自由な発想や構成などから主体的に主題を生成し表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」 「動き」の特性や視覚効果を理解してアニメーション表現のよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態表」 日常生活から動きの特徴を考察し、リアリティを追求し主体的に表現している。</p> <p>「態鑑」 目的に合わせて効果的な表現を主体的に追求して完成度を向上させ、よさや美しさを感じ取って見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

教科書 p 82～83 鑑賞／映像メディア表現 伝達の映像

目標		
<p>知識及び技能に関する目標 広告映像の表現方法・演出の意味を捉え、被写体の撮影方法や映像の表現効果、カメラワークや演出方法などの手法を理解する。</p> <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標 伝えたい内容に応じたアイデア・ストーリー構成の発想や構想の過程を分析し、映像の構図や編集でのモンタージュ効果を理解し、制作者の意図を追求し見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標 映像の複合的な要素の組み合わせによりできあがる作品の工程や完成度、役割を理解し、映像表現の豊かさを感じ取り主体的に鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p>		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知」 多様な表現方法と映像の表現効果を理解し、また機材の扱い、撮影・カメラワークを考察し、造形的な特徴などを基にその効果についても理解している。</p>	<p>「鑑」 伝えたい内容に応じたアイデア・ストーリー構成の発想や構想の過程を分析し、映像の構図や編集でのモンタージュ効果を理解し、制作者の意図を追求し、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>「態鑑」 映像の複合的な要素の組み合わせによりできあがる作品の工程や完成度、役割を理解し、主体的に映像表現の豊かさを感じ取り、鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>